

[第 35 回例会報告]

1. 参加者数：161名（学生会員8名含む）
2. 講演件数：16件（一般講演）
3. 今回の例会を振り返って（運営委員長：中 茂樹 富山大学）

今回の例会は、第29回例会以来となる、3年ぶりの現地での開催となりました。新型コロナウイルス感染症拡大による様々な活動が制限される中、第30回は中止、第31回から第34回はオンラインでの開催でした。有機 EL 討論会は、対面での交流・情報交換の場を提供するところに意義があることから、オンラインは利便性があるものの、現地開催を望む声も多く、ようやく対面での開催が実現しました。

今回の例会では、特別講演3件、一般口頭発表16件で計19件の講演があり、161名の参加登録者を得て開催することができました。

特別講演では、半導体エネルギー研究所の久保田朋広氏から、「キャリア輸送層の開発による青蛍光素子の長寿命化と高効率化」と題し、開発された長寿命化技術について詳細にご紹介いただきました。特別セッションでは塗布・印刷ディスプレイ技術をテーマに、住友化学の福島大介氏からは、「塗布型有機 EL 材料の開発」と題し、電荷輸送能を犠牲にすることなく一重項励起子対消滅を回避することに成功し、耐久性と長寿命化を実現した材料開発技術について紹介いただきました。また、JOLED の山田二郎氏からは、「印刷有機 EL ディスプレイの技術と展望」と題し、世界初の印刷方式有機 EL ディスプレイの量産化を実現する上で問題点となった、面内均一性、マイクロキャビティ構造と視野角特性両立についての開発技術を紹介いただきました。

一般講演においては、一般口頭発表16件の講演がありました。解析/評価、長寿命化技術、学生口頭発表、新規デバイス、シミュレーション・ショート口頭発表の5セッションを設け、様々な報告がなされました。内容としては、紫外光電子分光法による Biphotonic electron emission の観察と励起子失活過程の考察、光取り出し効率向上が期待できる低屈折率電荷輸送層の開発、アップコンバージョン材料・デバイスの検討、長寿命化のための周辺技術開発、さらには光線力学療法への新たな応用開発、など多岐に渡り、今後有機 EL 材料・デバイスの基礎的な理解や高性能化、アプリケーションがさらに進むことが期待される内容でした。

また、第35回例会ではこの分野を目指す学生への教育的な支援を目的として、試験的に学生口頭発表枠を設けました。次回例会からは、学生奨励賞の制度を整え、学生口頭発表セッションを常設したいと考えています。

初日の講演終了後には、展示会出展8社によるショートプレゼンを開催し、ホテル金沢に移動後、こちらも3年ぶりの対面での交流会を開催しました。

アンケートについては今回44名の方から回答をいただきました。取り上げるべきテーマ、運営上の問題など、頂いたコメントは今後の参考とさせていただきます。また、3年ぶりとなる現地開催に関しては、好意的な感想が多数見られ、参加者との交流・情報交換できることから、オンラインと比較して得られる情報量が多く、今後も現地開催を望む声が多い印象でした。一方、引き続きオンラインが良いとの意見もあり、オンラインにはオンラインの良さがありますので、今後の開催方法の検討事項とさせていただきたいと思います。運営委員会としては引き続き、有機 EL の最新動向に関連するトピック、及び有機 EL のデバイス開発や評価・基礎物性などの講演を募って、会員の皆様の研究開発に生かして頂けるような例会を目指していきたいと考えております。よろしくご依頼致します。

4. 例会プログラム・アンケート結果

https://yuki-tohronkai.jp/data/program/program35_1.pdf : 例会プログラム

<https://yuki-tohronkai.jp/data/question/20221205.pdf> : アンケート結果

5. 次回例会の開催案内 (次期実行委員長：硯里 善幸 山形大学)

第36回例会は、2023年6月22日(木)、23日(金)に東京国際交流館プラザ平成3階「国際交流会議場」(東京 お台場)、または新型コロナウイルス感染状況によってはオンラインにて開催を致します。詳細については、追ってお知らせ致します。皆さまのご投稿およびご参加をお待ちしております。

=====以上